

## 日本経済新聞

## シャープ最終赤字に、テレビ不振や特損で 15年3月期中期計画を撤回、今春メドに策定

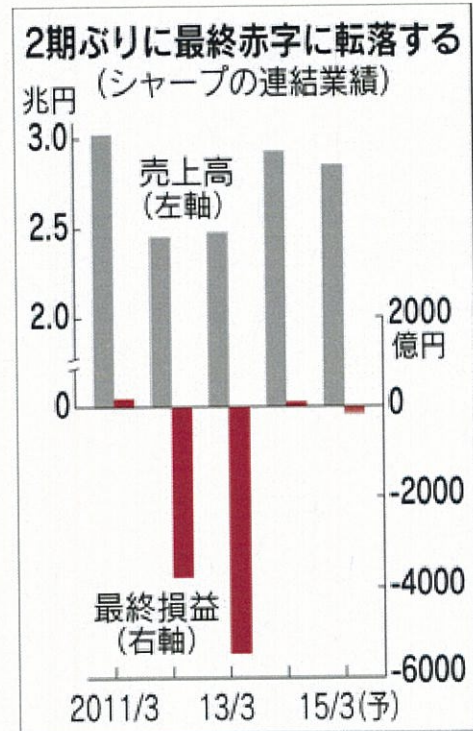
2015/1/19 2:00 | 日本経済新聞 電子版

シャープが2015年3月期に、再び連結最終赤字に転落する見通しとなった。従来は300億円の黒字を予想していたが、価格競争が激しいテレビなど主力製品で採算が悪化しているうえ、特別損失の計上などが響く。赤字は数百億円規模にのぼる可能性がある。16年3月期に800億円の最終黒字を目指していた中期経営計画を撤回し、今春をメドに新たな再建計画を策定する。

売上高は従来予想の2兆9千億円を下回り、本業のもうけを示す営業利益は前期比半減の500億円前後と、従来予想の半分にとどまりそうだ。円安・ドル高で、海外で生産する白物家電や太陽電池などの輸入採算も悪化する。電子部品事業も赤字になる見通しだ。

同社は液晶事業が悪化していた13年3月期までの2年間で9千億円を超える最終赤字を計上した。前期は中小型液晶が好調で115億円の黒字になったが、ここに来て価格競争が激しくなり、採算が急速に悪化している。

業績悪化を受け、16年3月期に純利益800億円を目指していた中期計画は撤回し、18年3月期を最終年度とする新たな計画に作り直す。主力取引銀行など金融機関の協力を得るため、不採算事業の撤退など抜本的なリストラを視野に入れながら、新規事業の育成などにも取り組む。



NIKKEI Copyright © 2015 Nikkei Inc. All rights reserved.

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

**日本経済新聞**

---

**東証寄り付き、反発して始まる 米株高や円安好感、1万7000円挟み推移**

2015/1/19 9:26 | 日本経済新聞 電子版

19日前場寄り付きの東京株式市場で日経平均株価は反発して始まった。寄り付きは前週末比136円ほど高い1万7000円78銭。取引時間中として2営業日ぶりに1万7000円台を回復した。その後は1万7000円を挟んで取引されている。前週末の欧米株高に加え、円安・ドル高を好感した買いが先行した。ファストリが1%超、上昇して始まったほか、東エレクトやファナックなど値がさ株が高い。前週末の原油相場が反発したことを受け、鉱業株なども上げている。

前週末16日の米株式市場ではダウ工業株30種平均が6営業日ぶりに大幅反発した。終値は前日比190ドル高の1万7511ドルだった。原油先物相場が上げたことで投資家のリスク回避姿勢が和らいだ。16日はドイツやフランスなどの株価指数も上げており、週明けの日本株の買い安心感につながっている。

JPX日経インデックス400と東証株価指数(TOPIX)はともに反発して始まった。

シャープは「15年3月期は最終赤字に転落する見通し」と伝わり、売りが先行。一時8%超安い水準に下落した。

〔日経QUICKニュース(NQN)〕

---

**NIKKEI** Copyright © 2015 Nikkei Inc. All rights reserved.

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。